

営農情報

第8号 平成27年7月15日発行

(大豆営農情報 7月号)

福岡大城農業協同組合
南筑後普及指導センター

7月上中旬の断続的な降雨や台風の影響で、播種の開始が遅れています。
収量、品質向上のためには今後の管理が重要です。以下の点に留意して適期作業を行いましょう。

1 中耕・培土

- (1) 中耕・培土は土の通気性を良くし、根の発達を促すことで、根粒菌数を増やし、地上部の発育と倒伏防止に有効です。また、雑草防除にも役立ちます。
- (2) 本葉2～5葉期（播種後15～25日頃）に**1～2回、株元に土が十分寄るようにていねい**に行います。

2 ハスモンヨトウ防除

白変葉が見え始める、幼虫が若～中齢（幼虫の体長が1～2cm）の頃が防除適期です。時期を逸すると効果が劣ることがあるので、適期防除を心がけましょう。防除時期については、今後の防除情報に十分注意して下さい。

薬剤名	希釈倍数	使用回数	備考
プレバソンフロアブル5	4000倍	2回以内	速効性、残効長い

3 除草剤

中耕・培土による雑草対策が基本ですが、雑草が多い場合、以下の除草剤が使えます。

薬剤名	10a 当たり使用量	備考
ポルト フロアブル	水100ℓに薬剤200～ 300mlを混ぜる	イネ科雑草のみに効果あり。 広葉雑草には効果が無いので注意する。
大豆バサグラン 液剤	水100ℓに薬剤100～ 150mlを混ぜる	イネ科を除く一年生雑草に効果あり大豆の 2葉期～開花前（収穫45日前まで）
	水100ℓに薬剤300～ 500mlを混ぜる	イネ科を除く一年生雑草に効果あり 大豆の生育期（収穫45日前まで） ※畦間散布（大豆にかからないように散布する）

4 水管理

梅雨明け後、晴天で高温の日が多いと土壌が過乾燥となり、大豆の根の伸長抑制と根粒菌の活性低下を招きます。その際は、暗渠を施工し乾きやすいほ場では、暗渠の栓を締めて下さい。

また、開花期に土が極端に乾燥する場合は、花が落ち、莢付きが悪くなります。一溝ずつ水を入れるなど、かん水のやり方を工夫しましょう。

農薬の安全使用と飛散防止対策を徹底しましょう！